



平成23年度決算の概要

平成24年7月

I. 決算報告書の概要

平成23年度の機構の一切の収入及び支出の実績(収入決定額及び支出決定額)を示すもの。

(単位:億円、単位未満切捨て)

収 入			支 出		
区 分	予算額	決算額	区 分	予算額	決算額
運営費交付金	1,326	1,326	一般管理費	70	67
施設整備費補助金	86	88	事業費	1,266	1,236
国際宇宙ステーション開発費補助金	300	267	施設整備費補助金経費	86	87
地球観測システム研究開発費補助金	127	101	国際宇宙ステーション開発費補助金経費	300	267
受託収入	436	504	地球観測システム研究開発費補助金経費	127	101
その他の収入	10	7	受託経費	436	248
計	2,287	2,296	計	2,287	2,008

* 億円未満切捨てのため、差額及び合計額が一致しないことがある。

Ⅱ. 貸借対照表の概要

* 各年度末におけるJAXAの財産の状態を示すもの

(単位:億円、単位未満切捨て)

区 分	22年度末	23年度末	増減	区 分	22年度末	23年度末	増減
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	1,738	2,240	501	流動負債	1,262	1,584	321
うち 現金及び預金	397	957	559	うち 運営費交付金債務	167	238	70
未成受託業務支出金	753	478	△ 274	未払金	276	578	302
貯蔵品	354	415	61	前受金	753	699	△ 53
固定資産	4,932	4,684	△ 248	固定負債	2,628	2,764	135
有形固定資産	4,891	4,640	△ 251	うち 資産見返負債	2,341	2,315	△ 26
うち 建物	497	497	0.2	国際宇宙ステーション			
機械装置	203	176	△ 26	未履行債務	235	417	182
航空機	0.4	21	20	負債合計	3,890	4,348	457
人工衛星	2,392	1,936	△ 456				
土地	737	750	12	(純資産の部)			
建設仮勘定	800	1,027	227	資本金	5,444	5,443	△ 0.4
無形固定資産	29	31	1	資本剰余金	△ 2,403	△ 2,576	△ 172
投資その他の資産	10	12	1	うち 損益外減損損失累計額	△ 24	△ 24	△ 0.1
				繰越欠損金	260	291	30
				うち 当期総損失	174	30	△ 143
				純資産合計	2,779	2,575	△ 203
資産合計	6,670	6,924	253	負債・純資産合計	6,670	6,924	253

Ⅲ. 損益計算書の概要

* 当該事業年度におけるJAXAの業務運営の状況を示す。

(単位: 億円、億円未満切捨)

区 分	22 年度	23 年度	増 減	増 減 内 訳 等
経常費用	2,050	2,194	144	
業務費	1,811	1,611	△ 199	研究材料費及び消耗品費の減等
受託費	178	520	342	研究材料費及び消耗品費の増等
一般管理費	59	60	1	
その他	1	1	△ 0.4	
経常収益	1,876	2,166	289	
運営費交付金収益	852	859	7	
受託収入	177	521	344	情報収集衛星関係収入の増
財産賃貸等収入	3	2	△ 0.6	
補助金等収益	340	293	△ 46	補助金を財源とする業務費の減見合
施設費収益	1	4	3	施設整備費補助金の執行に伴う収益化
資産見返負債戻入	496	480	△ 15	資産見返補助金等の減見合
その他	5	3	△ 1	
経常損失	173	28	△ 145	
臨時損失	0.9	25	24	災害損失を計上したことによる増等
臨時利益	0.9	23	22	災害損失見合の増等
税引前当期純損失	173	30	△ 143	
法人税、住民税及び事業税	0.2	0.2	0.02	
当期純損失	174	30	△ 143	
当期総損失	174	30	△ 143	

注記における当期新規記載事項抜粋

VI. 貸借対照表関係

4. 当期に減損の兆候があった固定資産は以下のとおりであります。

(1)人工衛星「あかつき」

① 固定資産の概要

- ・用途 金星探査機(PLANET-C)
- ・種類 人工衛星
- ・場所 太陽周回軌道を飛行中
- ・帳簿価格(平成23年度期末) 13,946,571,940円

② 認められた減損の兆候の概要

上記資産については、平成22年5月に種子島宇宙センターより打上げ、同12月に金星周回軌道投入を実施しましたが、予定軌道への投入ができなかったため減損の兆候が認められました。

③ 減損の認識に至らなかった理由

上記資産については、平成27(2015)年に金星に再会合できる軌道を飛行中であり、平成24年度の年度計画において、金星周回軌道への次の投入機会に向けた着実な運用を明記しており今後も使用していくことが明らかであるため、減損を認識しておりません。

8. 不要財産に係る国庫納付等に関する事項

当期に国庫納付をした資産は以下のとおりであります。

(1) 角田宿舎の土地等の一部

資産の種類	帳簿価格	不要理由	国庫納付方法	国庫納付額	国庫納付日	減資額
土地及び構築物	32,007,262円	将来にわたり業務を実施するうえで必要がなくなったと認められたため	現物納付	32,007,262円	H24. 1. 27	49,693,699円

注記における当期新規記載事項抜粋

Ⅶ. 損益計算書関係

4. 平成23年3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震に伴って当期に発生した建物及び設備等の原状回復費用等2,301,488,331円を臨時損失として計上しております。
なお、当該臨時損失の相当額を運営費交付金収益及び補助金等収益並びに施設費収益等により臨時利益として計上しております。
5. 電波天文衛星(ASTRO-G)プロジェクトについては、平成23年12月に中止とすることが決定されました。これに伴い電波天文衛星(ASTRO-G)プロジェクトに係る1,531,787,519円を建設仮勘定から当期の研究材料費及び消耗品費に振り替えております。

Ⅹ. その他独立行政法人の状況を適切に開示するために必要な会計情報

平成24年1月27日に三菱電機株式会社より、当機構との契約において費用の過大請求を行っていたとの報告を受けました。当機構では同日付けで同社に対し競争参加資格の停止を行うとともに、直ちに対策本部を設置し調査の実施及び再発防止の検討等を進めております。

なお、過払い額の調査中であるため、返還金等については現時点では不明であります。

また、同社からの支払い請求が行われなかったため、当期末の現金及び預金並びに未払金が増加しております。

【参考】 当期総損失における「承継資産の費用化」によるもの

【JAXA設立時】

開始貸借対照表

(資産の部)		(純資産の部)	
I. 流動資産		I. 資本金	
貯蔵品	200	出資金	300
前払金	100		

【業務完了時・使用時】

貸借対照表

(資産の部)		(純資産の部)	
I. 流動資産		I. 資本金	
貯蔵品	0	出資金	300
前払金	0		

損益計算書

経常費用		当期総損失	300
業務費	300		

■ JAXA設立時に旧法人から承継した流動資産(貯蔵品、前払金、前払費用)等については、出資金を構成しており、当該流動資産等を業務完了時や使用時に費用処理する場合、損失が発生する。

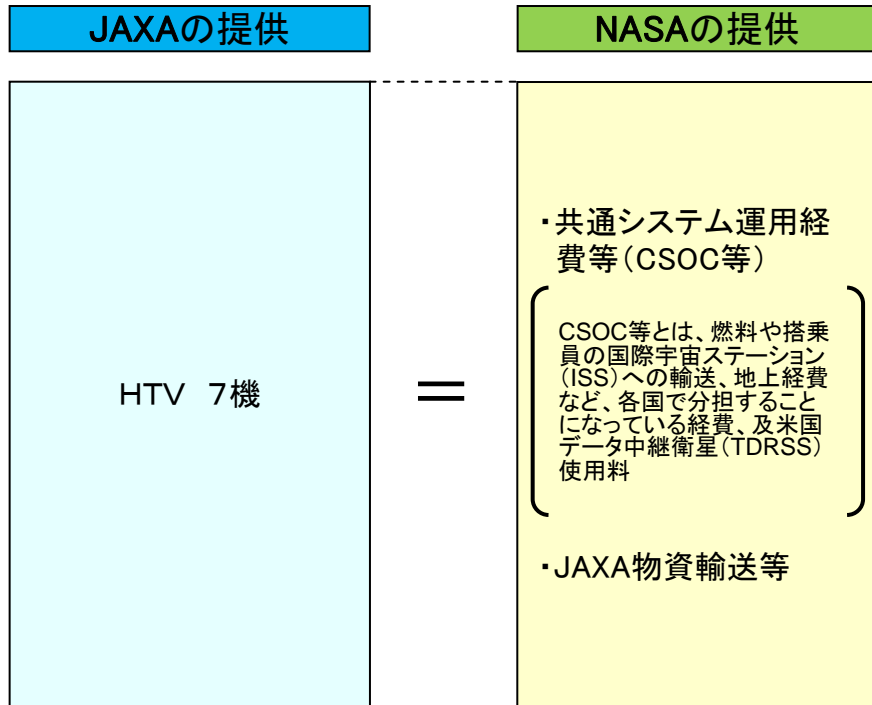
※貯蔵品とは研究又は開発試験の対象として調達した供試体及び資材等をいい、試験に使用して費用が発生した場合は貯蔵品を減額して費用に振替を行う。

※前払金とは業務委託における契約履行前の支払などにより支出した前払いの額をいい、契約履行に伴い費用が発生した場合は前払金を減額して費用に振替を行う。

【参考】 当期総損失における「収益と費用の計上時期のずれ」によるもの

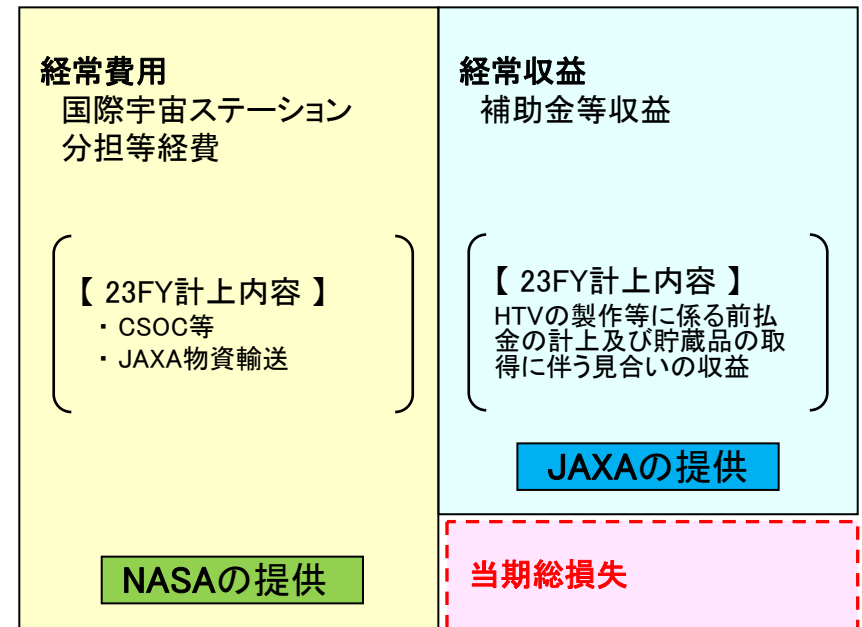
(例) NASAとのオフセット取引に伴う費用計上によるもの

オフセット取引の全体像



財務諸表への影響

損益計算書



- NASAとのオフセット取引は、平成20年8月から平成27年12月までの国際宇宙ステーション(ISS)の運用期間におけるJAXAが負担すべき経費(国際宇宙ステーションの運用に必要な共通システム運用経費等)を、HTV7機を提供することでオフセット(等価交換)することを政府間で合意をしている。
- 平成23年度にあっては、JAXAの提供よりもNASAからの提供が上回った(先行した)ため当期総損失となっているが、国際宇宙ステーションの運用期間における双方のそれぞれサービスの提供が完了すれば、損益は生じないこととなる。